

まちかど「あしあと」プロジェクト

足跡のある風景

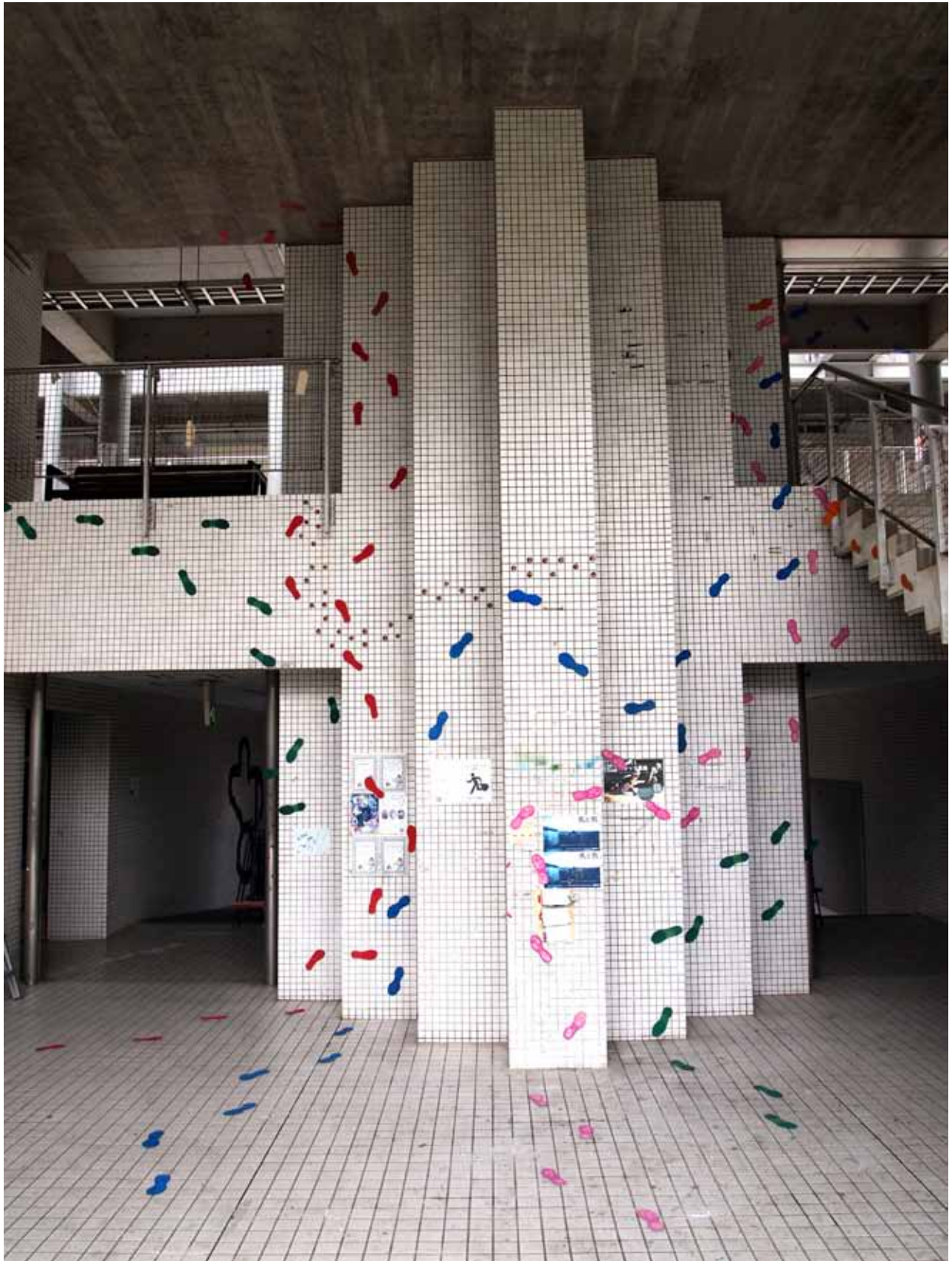


制作記録ファイル

K0700XX ○○○○

複合的表現Ⅱ スクーリング

壁も床も天井も、自由に歩くことが出来たら素晴らしい。



武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 10号館



1



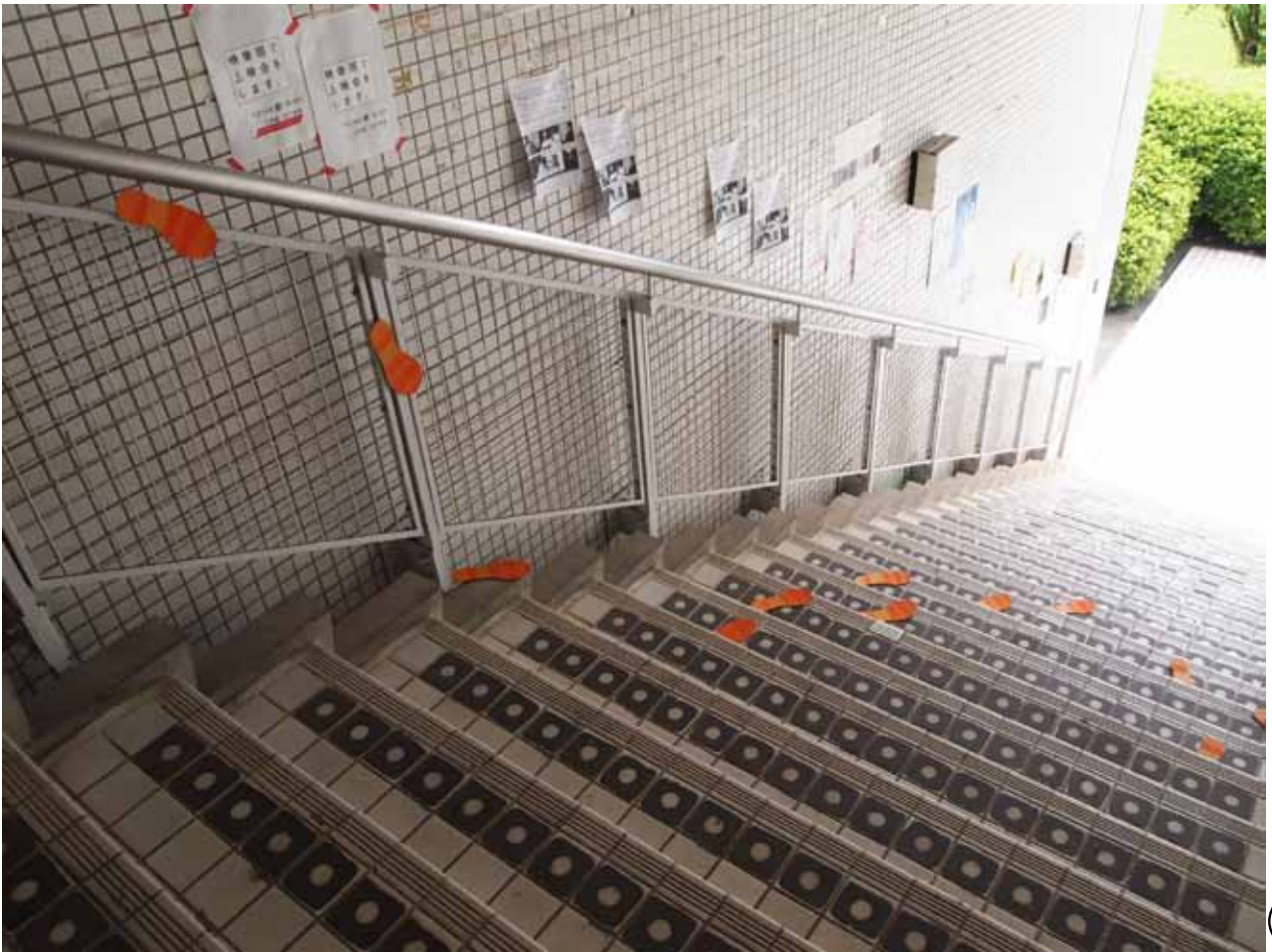
2



3



4



5



6

1. テーマ

壁も床も天井も、自由に歩くことが出来たら素晴らしい。重力に逆らっても、壁は歩くことは出来ないが、重力がないと宇宙空間と同じになってしまうのか？

10号館の壁と床と天井は、無機質なタイルとコンクリートで出来たグリッド模様のクレーな空間である。その空間に自由に歩いた証となる「あしあと」を付ければ、きっと、景色が変わるはずである。

2. 目的

殺風景なグレーの空間を明るい色の「あしあと」を付けることで、広がりを持った明るい空間に変貌させる。

3. 制作作業

足跡を付けて行くうちに、空間がどんどん広がり、貼り付ける場所も思わぬ場所へと展開した。残念ながら、天井へは貼れない。それでも諦めず、脚立を梯子にのぼすと手の届く範囲に貼ることができた。後は、それを手がかりに観る者の想像の世界にお任せすることにした。

4. 結果

足跡を貼り付けることにより、想像していた以上に明るい空間を広げることが出来た。建物の遠景も目立つように変化した。

5. 制作から得た感想等

ひたすら、単純な足跡作成の作業は、だいぶ地味で、まるで内職作業のようであった。

でも、この靴底または、靴の中敷き製品は、一度履いたら、ヨレヨレになる粗悪品、夜店で売られるインチキ商品だ。

壁に貼り付けが進むにつれて、通りがかりの人たちが、みんな関心を持って眺めて行くと思ったら、快感になった。先生や何人かの人たちに「天井にも貼れたら、もっと面白いのにね。」と言われたが、足場を組まない限り、無理のようだ。

今回は無理だが、一夜にして足跡を付けることが出来たら、きっと、朝にやって来たみんなが驚くだろうと思った。

最終日にはがして処分は、ちょっとさみしい。もっと色んな建物に貼りたくなった。

今回の制作で、先生から、「物語性を持った制作が必要。」「足跡に個性を持たせる。」「見えない部分にも付けると、空間が広がる。」等々のご指導を頂いた。

再び機会が得られたら、別の町の別の建物で、町の人たちの足を型取り、巻き込んでやってみたいと思った。想像をふくらますと、楽しくなってきた。

<写真の説明> 表紙は正面から望む 10号館

①全体 ②床 ③左天井付近 ④右天井付近 ⑤階段 ⑥正面上部